

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フレンズ石津		
○保護者評価実施期間	2025年8月20日		～ 2025年8月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	2025年8月20日		～ 2025年9月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年10月14日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスとの区切りを壁で明確に分け、安全面に配慮した環境を整えている。	放デイの利用時間前には広いスペースを活用し、身体を動かす活動を取り入れる等、子どもたちが飽きることなく過ごせるよう工夫している。安全性と活動の多様性の両立を意識している。	利用児童数の増加に伴い、限られたスペースを有効に活用する必要がある。静と動の活動を適切に組み合わせながら、子どもたちの最善の利益を考えた環境作りに努めていく。
2	個別療育と集団療育の両方を実施し、子どもの発達段階に応じた柔軟な支援を行っている。	来所時間に応じて個別療育を行い、子どもの目標に合わせたスモールステップの支援を重視している。「できた」という成功体験を積み重ね、自信の形成に繋げている。	療育のマンネリ化を防ぐために、職員同士での情報共有や新たな教材・声掛けの工夫を続けている。今後も子どもの興味関心を引き出すための教材開発・実践を進めていく。
3	活動の種類が豊富で、子どもの「生活する力」を育む機会が多い。	机上活動や運動遊びに加え、昼食作りやおやつクッキング等の活動を積極的に取り入れている。安全面に配慮し、事前に役割分担を決めることで、年齢や発達段階に応じた役割が担えるように工夫している。	現在は簡単な工程(野菜を洗う・皮をむく等)にとどまっているが、今後は安全を確保しながら作業内容を段階的に広げ、子どもたちが達成感を感じられる活動に発展させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放デイと区切られた環境の中で活動しているため、移行期に子どもの切り替えが難しい場面がある。	壁と扉で明確に区切っているが、放デイ側にある玩具等に興味を示し、無断で入ってしまうことがある。ルールとして入室制限を設けている一方で、「遊びたい」という子どもの気持ちを尊重する必要がある。	遊びたい気持ちを言葉で伝える練習として、職員に申し出るように促していく。放デイ児の来所前は、児発児も両スペースを活用できるようにする等、柔軟に対応していく。
2	児童の増員により、療育スペースに十分な余裕がない。	児発開設に伴い、放デイスペースを分割して壁で仕切ったため、落ち着いた空間の確保が難しい。上限人数に達すると、遊びと療育の場が混在してしまう。	室内活動に加えて戸外活動を積極的に取り入れ、十分な広さを確保できるように工夫していく。また、今後の人員確保にも努め、より充実した環境整備を行う。
3	職員間の情報共有にばらつきがあり、連携が十分に取れていない場合がある。	全体での話し合いの時間の確保がしづらく、個人間でのやりとりが中心となっている。	月一回の会議に加え、日常的に小さな報連相を行える体制を整える。管理者を中心に情報共有を徹底し、全員が同じ方向性で支援を進められるようにする。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 フレンズ石津

公表日 2025年10月22日

利用児童数

2025年8月30日

回収数 5

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	60%	20%		20%	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	80%			20%	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	80%			20%	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%				
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	100%				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%				
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	100%				
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%				
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	80%			20%	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	80%			20%	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	40%	20%	20%	20%	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	100%				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	80%			20%	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。		40%	40%	20%	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%					

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	40%	40%		20%		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	40%	20%		40%		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	40%			60%		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	80%			20%		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	100%					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100%					
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%					

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	フレンス石津		公表日 2025 年 10 月 22日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		・身体を動かす活動の際には放課後等デイサービスのスペースを時間で借り、環境に応じて柔軟に対応している。	・将来的には専用スペースの拡充についても検討を進めたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		・児童発達支援と放課後等デイサービスで担当を分けつつ、必要に応じて職員を臨機応変に配置している。	・新規利用利用者の増加に備え、人的体制を強化できるよう継続的な検討が必要である。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		・個別のマークやイラストを用いることで、文字が読めない子どもでも物の場所や活動がわかるように工夫している。	・子どもの特性に応じた環境整備をさらに進め、バリアフリーの観点からもより安心できる空間を目指す必要がある。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		・毎朝の清掃や随時の清掃を徹底し、清潔な環境を維持している。	・季節や利用状況に応じた換気・空調の工夫も継続的に検討する必要がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	・痲痺時には静養室を利用し、物理的に人と距離を取って落ち着けるようにしている。	・静養室の使用方法や声掛けの仕方を職員間でさらに共有し、子どもにとって安心できる対応を徹底していきたい。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		・日々の支援については、全支援員で話し合いを行い、振り返りの機会を設けている。	・個人間のやり取りに偏ることがあり、全員で共通理解を持つことが難しい場面がある。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	3	・意見を基に支援や環境改善に反映できるように取り組んでいる。	・今後は意見を共有する仕組みを見直し、業務改善へ繋げやすい体制を整えたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	5	・利用者の情報共有はアプリを活用し、スムーズに行えている。	・意見交換もアプリ等で記録・共有出来る仕組みを検討していきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	6	・様々な視点を取り入れ、事業所の質向上に努めている。	・改善内容を具体的な行動計画に落とし込み、実行・検証を強化していく必要がある。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	4	・アプリを利用し、全指導員が同じ研修を受けられる仕組みを整え、知識を深めている。	・研修後に意見交換や実践につなげる話し合いの場を設けたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		・規定のフォーマットを用い、支援プログラムを作成・公表しており、透明性を確保している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		・アセスメント前に職員間で子どもの様子を共有し、事前に課題を立てている。	・アセスメント時に得られた情報をさらに具体化し、家庭や地域での様子や反映できる仕組みを強化したい。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・気づきや課題を常に全職員で共有し、共通認識を持つことを大切にしている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		・計画立案時には、子どもの様子とニーズ・課題を照らし合わせて検討している。	・支援計画が日常の支援に確実に反映されているかを定期的に確認・振り返る仕組みをさらに充実させたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		・標準化されたツールを用いてアセスメントを実施し、子どもの発達状況を客観的に把握している。	・ツールによる評価と日々の観察記録をより体系的に組み合わせ、計画へ反映するプロセスを強化していきたい。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		・面談を通じて必要な支援を把握し、本人の支援内容に適切に反映している。	・本人支援は十分に行えているが、家族支援・移行支援・地域支援の視点は弱いため、今後さらに取り組む必要がある。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		・多角的な視点を取り入れることで、子どもに合った活動を検討出来ている。	・職員全員で集まる時間が限られており、効率的に意見交換出来る仕組みづくりが課題。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	2	・子どもの流行や興味関心も反映させ、楽しめる工夫を行っている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		・職員間で子どもの様子を共有し、成長段階に応じてスモールステップを設定している。	・集団と個別のバランスを検証し、子どもによって最適化できる仕組みを強化したい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		・毎朝のミーティングで支援内容や役割分担を確認し、全体での関わりを意識している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	1	・情報の伝達漏れがないよう、日々工夫している。	・送迎業務との兼ね合いで全員参加の振り返りが難しいため、簡易的に記録共有できる方法の導入が課題。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		・支援計画書に基づき、支援内容と結果を記録に残している。	・記録の質や分析の仕方を統一することで、さらに支援改善に繋げられる。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		・職員間でも日常的に支援計画を見直し、改善の必要があるかを検討している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		・児発管や管理者が参画し、会議前に事業所内で情報を整理してから臨んでいる。	・会議の場に支援に直接関わる職員が同席出来る仕組みを検討すると、さらに具体的な情報提供が出来る。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	2	8		・連携が支援にどのように反映されているか検証する仕組みが不足している。今後は支援とのつながりを可視化することが課題。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	7		・情報が形式的にならないよう、園側との意見交換の機会をさらに増やす必要がある。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8	2	・移行時に学校との送迎のルール確認や支援内容を伝達し、課題を共有することで連携して支援できる体制を整えている。	・就学前から段階的に学校と連携し、子どもの不安軽減につなげられるよう準備を強化したい。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		10		・センターとの直接的なスーパーバイズや助言を受ける仕組みを取り入れていくことが今後の課題。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		10		・安全面に配慮しつつ、保育園や地域の子どもたちと一緒に活動できる機会を増やしていく必要がある。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	2	・送迎時や公式LINEを通じて子どもの状況を保護者と共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		10		・家族支援プログラムや保護者研修の機会を提供・紹介する取り組みが不足している。今後整備が必要。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		・契約面談及び半年ごとの面談で丁寧に説明を行っている。	・書面だけでなく、図やイラストを用いる等視覚的にわかりやすい説明方法を検討していきたい。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		・面談でデイや家庭、園での様子を共有し、保護者とともにニーズや課題を整理している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		・来所または送迎時に柔軟に対応できるように配慮している。	・支援内容の変更時にも、改めて説明・同意を行う流れをより明確にしていきたい。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	2	・送迎時や公式LINEで気軽に相談できる環境を整えている。	・相談内容の記録・共有体制を整え、助言内容が継続的な支援に活かせるようにしていきたい。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		10		・家庭の状況や他事業所利用を考慮し、無理のない形で交流を検討している。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	3	・利用者が安心して意見を伝えられる環境作りを意識している。	・即時に全体会議を開くことが難しい為、記録共有ツールの活用等で迅速な情報共有を強化したい。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8	2	・全体での連絡事項は書面で配布し、確実に伝達できるよう工夫している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		・職員全体で情報管理に関する研修を定期的実施し、意識向上を図りたい。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		・子どもにはイラストやカードを活用して理解しやすい支援を行っており、保護者に対しても仕事の都合に合わせ、公式LINEや電話、送迎時等複数の方法で連絡を取っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		10		・地域行事への参加や地域住民の招待など、より地域に根差した交流活動を計画していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	4	・事故防止マニュアルを策定し、全職員に周知している。	・保護者への周知が十分でないため、今後は通信等を通じて周知を図りたい。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	5		・業務継続計画の具体的内容を見直し、訓練計画と連動させていくことが今後の課題。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10		・契約面談時にてんかんの有無を確認し、保護者からの申し出により服薬や予防接種情報を共有している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		・食事、おやつの際に机を分ける等、安全な環境を確保している。	・アレルギー対応を視覚的にも明確化できるよう、カード表示や掲示の工夫を取り入れたい。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	7	・安全計画は作成しており、支援の基盤として意識している。	・年に数回、安全確認の為に内部点検を設けたい。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	5		・保護者への安全計画の周知が不十分でないため、今後は面談や通信等を通して理解を深めてもらえる機会を設けたい。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	3	・職員がヒヤリハットを感じた際は書面で記録し、全員が確認できるようファイルで共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		・虐待防止に関する内部研修の回数を増やし、継続的な学びの機会を設けたい。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	5		・職員全体で身体拘束に関する理解をさらに深め、具体的な対応手順の確認や研修を行いたい。	